



Abstract

The TRICITY is a 125cc city commuter with automatic transmission, featuring a double front wheel configuration. The model was developed to create a new commuter market, and is one of a group of products realizing Yamaha Motor's long-term vision of the "Personal Mobility Frontier." The design intended for a "stylish and popular shape" to visually represent the nimbleness and sporty ride of TRICITY. By combining easy handling and stability with functionality and performance the aim is to deliver a new type of fun.

1 はじめに

「TRICITY」は、フロント2輪構造を特徴とする125ccのオートマチックシティコムーターである。当社の長期ビジョンに掲げる「パーソナルモビリティのフロンティア」を具現化する製品群の一つとして、新たなコムーター市場の創造を目指して開発を行った。新しい楽しさを感じさせる軽快かつスポーティな走りや、扱いやすさと安定感を感じさせる各種の機能・性能に加え、それらを視覚的に伝える「お洒落で皆に好かれるカタチ」を目指したデザイン開発を行った。

2 開発の狙い／製品の特徴

日本をはじめ、欧州や東南アジア各国の都市部では、激しい交通渋滞が慢性化している。また、ガソリン価格の高騰や駐車場不足など、世界の都市交通には多くの社会的な課

題が山積されている。

スクーターをはじめとするコンパクトな二輪車は、小回りと機敏な走行性、さらに経済的かつ手軽であるという理由から近年その有用性が再認識されているが、小型コムーターのさらなる普及は都市交通の課題解消に向けたソリューションの一つになると考えられている。近年では、スマートで効率的な移動を求める四輪車ユーザの二輪車市場への流入も顕在化するなど、小型コムーターを核とした「ひろがるモビリティの世界」に一層の期待が集まっている。こうした背景の中、当社初のLMW（リーニング・マルチ・ホイール）機構を備えた「TRICITY」は、グローバル展開のニューモデルであり、既存の二輪車ユーザだけでなく、初めての人にとっても親しみやすく扱いやすい《ニュースタンダードシティコムーター》を目指して開発を行った。以下に製品の主な特徴を示す。

- 二輪車と同様の「シンプルかつ容易な運転操作」
- 軽快でスポーティなハンドリングと安定感の両立による「新しい楽しさ」
- さまざまな状況に対応する「快適な乗り心地」
- シティコムータとしての「高いユーティリティ性」
- パワフルで経済的な「水冷 125cc YM-JET F.I. エンジン」
- フロント2輪の特徴を生かした先進的かつ親しみやすい「個性的なデザイン」

洒落で皆に好かれるカタチ】である。次世代のスタンダードシティコムータとして、すべての人々にスマートな移動具と感じていただけるデザインを目指した。具体的には、二輪車所有経験のないノンユーズには「身近なエレガント」を感じていただけるよう、また四輪ユーズには「新しいモダン」を感じていただけるよう、エレガントとモダンを融合させたデザインの実現に取り組んだ(図1)。

3 デザインコンセプト

当社は、デザインをモノ創りの重要な柱として位置づけ、2013年にデザインフィロソフィ“Refined Dynamism”を発表した。また、このデザインフィロソフィを具現化していくために、“Awakening Passion(心を一瞬でわしづかみにする獨創性)”、“Lasting Integrity(本質が時を超えて信頼に繋がる)”、“Elegance in Motion(しなやかで軽快な美しい動き)”、“Brilliant Beacon(人々と共に暮らしを輝かせる)”という4つのデザインビジョンを設けている。「TRICITY」のデザイン開発も、このデザインフィロソフィ、そしてデザインビジョンを基点に進められた。

「TRICITY」のデザインコンセプトは、【SMART FOR ALL お



図1 ファイナル レンダリング



図2 滑らかな一筆描きを連想させるボディライン

4 デザインの特徴

エレガントかつモダンなデザインを実現するために、「TRICITY」にはいくつかの特徴的なデザインメソッドを用いている。主なポイントは、以下のとおりである。

4-1. 流麗なボディライン

「エレガント＆モダン」を端的に表現したのが、滑らかな一筆描きの筆運びを連想させる流麗なサイドのボディライン(図2)である。また、フロントカウルからレッグシールド、フットボード、そしてリアカウルにかけて流れるラインは、カラーリングによるコントラストで美しさをより強調した。さらに、躍動感を持たせることでフロント2輪のダイナミックな動きを際立たせる一方、乗人を美しく見せ、見る人には落ち着いた軽快感を与えるデザインを目指した。

4-2. 独創的でインパクトのあるフロントフェンダ

フロントフェンダをフロントカウルから独立させ、左右それぞれ外側にボリュームを持たせると同時に内側に向けて絞り込むような造形でフロント2輪の特徴を強調した。さらに最大幅にレイアウトしたウィンカと、LED ポジションランプを備えたフロントマスクの相乗効果により、フロントまわりにモダンな印象を持たせている(図3)。



図3 モダンな印象のフロントまわり

4-3. 上品なキャストホイール

ホイールには新デザインのキャストホイールを採用した(図4)。V字型スポーク3組で構成した6本スポークは滑らかな面構成とし、軽快感と落ち着いた雰囲気とを両立させた。さらに、

「リボンの結び」を思わせるスポーク面の流れて洗練されたやさしい印象を持たせた。



図4 新デザインのキャストホイール

4-4. ライダをやさしく迎えるインナパネル

レッグシールドの内側(インナパネルの中央)には、上質な質感を持ったX型の着色樹脂パーツをレイアウトした(図5)。この視覚的な効果によって、扱いやすそうな軽快なボリューム感とライダーをやさしく包み込むような安心感を両立している。また、ライダーが常に目にするメータパネルはLCDの1枚パネルを採用した。スイッチを入れるとまずすべての表示が点灯し、次に各表示を一つずつ点灯させることで、走り出すまでのごく短い時間にもライダーにワクワクした高揚感を提供する演出を織り込んだ(図6)。



図5 ライダーを包み込む空間



図6 高揚感を高めるメータパネル

4-5. 女性が乗り降りしやすいフットボード

シート下の大容量収納スペースなどシティコミュタとしての基本機能を高めながら、女性が乗り降りしやすいフラットなフットボードをはじめ、幅広いユーザー層を想定した仕様や機能を細部に織り込んだ。

5 カラーリング

「TRICITY」は、まったく新しい構成と骨格をカバーパネルの色構成を活かして表現することにした。具体的には、ホイールと同色（シルバー）のアンダーカバーを黒車と赤車に採用することで、後ろの1輪とあわせて安定感のある3角形のシャシーで構成されていることを強調した。

ラインナップにはシンプルかつ先進性を感じる「白（ブルーイッシュホワイトカクテル 1）」と、高級感のある「黒（ブラックメタリック X）」に加え、メタリック処理による金属感とマット仕上げによる重厚な質感を併せ持つ「赤（マットディープレッドメタリック 3）」を設定した。一般的に「赤」などビビッドな色は若いお客様をイメージさせる傾向にあるが、この色はあらゆる年齢層の方に高級感を感じていただけると考える。「TRICITY」はグローバル展開のモデルであり、各国ごとに異なるライフスタイルや街の景色の違いにも配慮した。たとえば黄色みがかかるヨーロッパの夕暮れや、青味が強くなる日本の街並といった点も考慮しながら適切なカラーリングを施した。

6 おわりに

「TRICITY」は、「見て、使って、乗って楽しい」新しいコミュタである。その楽しさをより多くの人に伝えるための工夫を造形の中にもふんだんに織り込んだ。「TRICITY」が提供する新しい楽しさを体験していただくためには、まず乗っていただくことが大前提である。そのために、親しみやすさを表現することで乗りものとしての敷居を下げることに注力した。「女性に

かっこよく乗っていただきたい」という思いを込めてデザインした、足を揃えて乗ることができるフラットなフットボードはその代表的な一例である。このように、「TRICITY」はまったく新しい機構を持ったシティコミュタであり、新たなお客様に提案するモデルであったことから、私たちデザイナーも常にワクワクしながらデザインワークに取り組むことができた。

■著者



野口 浩穂
Hirotohi Noguchi
デザイン本部
製品デザイン部



水谷 玄
Gen Mizutani
デザイン本部
製品デザイン部